





病害虫発生予察情報予報第 9 号

佐賀県農業技術防除センター

I. 予報の概要および各作物の特記事項

作物名	病害虫名 ^{注1)}	12月の予想発生量 ^{注2)}		病害虫防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病害虫 (抜粋)
		平年比	前年比		
タマネギ	べと病	やや多	並	260~262	
	ポトリチス葉枯症	並	並	263	
	1. べと病 本圃定植後にジャストフィットフロアブルとザンプロDMフロアブルを計画的に散布する。また、罹病株の発生を認めた場合は、直ちに抜き取って圃場外へ持ち出して処分する（平成30年11月28日付け防除対策資料第10号参照）。				
イチゴ (本圃)	ハダニ類	並	並	208~209	 ハダニ類
	うどんこ病	やや少	並	198~200	
	灰色かび病	並	並	201~202	
	アブラムシ類	やや多	並	213~214	
	1. ハダニ類 一部の圃場で発生が認められる。発生初期に防除を徹底する。また、天敵を利用する圃場では有効薬剤によりハダニの密度を0頭レベルに抑えた後に、天敵（カブリダニ類）を放飼する（平成30年9月11日付け防除対策資料第6号参照）。 2. 灰色かび病 受粉後に残った花弁が果実での発生の原因となるので、ブローア等を用い定期的に花弁を除去する。 3. 薬剤散布におけるミツバチへの危害防止 薬剤散布を行う際はミツバチの巣箱を圃場外に持ち出し、ミツバチがハウス内に入らないようにする。また、ミツバチが活動する午前中の散布は控える（導入可能日数は防除のてびき P541~P544 参照）。				
キュウリ	べと病	やや少	並	178~179	 キュウリ 黄化えそ病
	うどんこ病	多	多	176~178	
	褐斑病	やや少	少	181~182	
	アザミウマ類	やや少	やや少	190~191	
	コナジラミ類	やや多	並	189~190	
1. ミナミキイロアザミウマ：黄化えそ病、タバココナジラミ：退緑黄化病 黄化えそ病、退緑黄化病が発生している圃場がある。次作での発生を防ぐため、キルパー等を用いて株を完全に枯死させた後に株を抜き取り、ガス抜きを十分に行ってから、次作の定植準備をする（平成30年11月20日付け防除対策資料第9号参照）。					

作物名	病虫害名 ^{注1)}	12月の予想発生量 ^{注2)}		病虫害防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
トマト	葉かび病	並	並	225~226	 コナジラミ類
	灰色かび病	並	並	220~221	
	コナジラミ類	並	並	151~153 228~230	
1. タバココナジラミ：黄化葉巻病 ウイルス病の罹病株を認めた場合は、早急に除去処分するとともに、タバココナジラミに対する薬剤防除を徹底する。					
ナス	すすかび病	並	並	235~236	 灰色かび病
	灰色かび病	多	多	234~235	
	菌核病	やや多	並	237	
	アザミウマ類	やや少	並	154~159 241~242	
	コナジラミ類	やや少	並	151~153 242~243	
1. 灰色かび病・菌核病 一部の圃場で発生が認められる。果実に残った花弁や発病部位は早めに除去し、過湿にならないよう定期的に換気を行うとともに初期防除を徹底する。特に、『PC 筑陽』は花弁が残りやすいので、適宜取り除き処分する。					
野菜 共通	1. チョウ目害虫 一部圃場で発生が認められる。防除対策については 平成30年10月30日付け病虫害対策資料第8号を参照。				

作物名	病虫害名 ^{注1)}	12月の予想発生量 ^{注2)}		病虫害防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
キウ	白さび病	並	やや多	386~387	 オオタバコガ
	アザミウマ類	並	並	391~392	
	アブラムシ類	並	並	393~394	
	ハダニ類	やや少	並	392~393	
	ハモグリバエ類	やや少	並	395~396	
	チョウ目害虫	やや多	やや多	394~395 162~164	
花き 共通	1. チョウ目害虫 一部圃場で発生が認められる。防除対策については 平成30年10月30日付け病虫害対策資料第8号を参照。				

注1) 病虫害名に網掛けをしたものについては、予報の根拠とした内容を記載しています。

注2) 予想発生量については、平年および前年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病虫害について「平年および前年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注3) 防除対策については「[佐賀県病虫害防除のてびき](#)」も参照してください。

II. 予報の内容・根拠等について

予報内容（来月の予想発生量）

- 平年（過去 10 年間）及び前年と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。
- 発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、(－)：少発生、(－～±)：やや少発生、(±)：並発生、(±～＋)：やや多発生、(＋)：多発生として示しています。

防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「県防除のてびき」をご参照ください（1 ページの予報の概要にリンク有り）。

写真

- 1～2 ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。
4 ページ目以降：定期調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

12 月の気象条件

- 病害虫の発生に関与する 12 月の気象条件については、福岡管区気象台発表の 3 ヶ月予報（平成 30 年 11 月 21 日）を基に、「気温：平年よりやや高い」、「降水量：平年並」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%) 及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	3 ヶ月予報における 12 月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に関与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	20	40 (7.6°C)	40	やや高い
降水量	30	30 (48 mm)	40	並

Ⅲ. 12月の予報

タマネギ

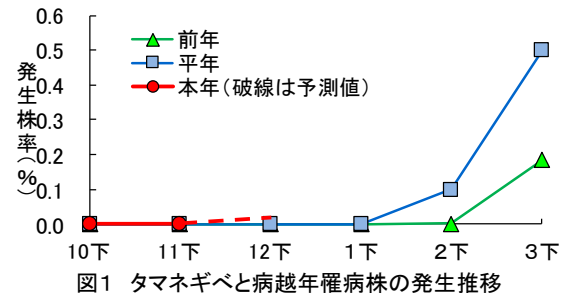
(定期調査 20 圃場)
調査日：11月21日



定期調査の圃場の様子

1. ベと病

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い（前年並）
（12月に発生する可能性は低いが、苗床あるいは本圃で感染する可能性がある）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
発生株率：0%（平年0%、前年0%）
平年比：並〈±〉 前年比：並〈±〉
 - (2) 圃場の菌密度
近年の発生は多いため、圃場の菌密度は高いとみられる。〈±～+〉
 - (3) 12月の気象条件
降水量が平年並で、並発生の条件〈±〉
- 3) 防除上注意すべき事項
(1) 特記事項を参照。



イチゴ（本圃）

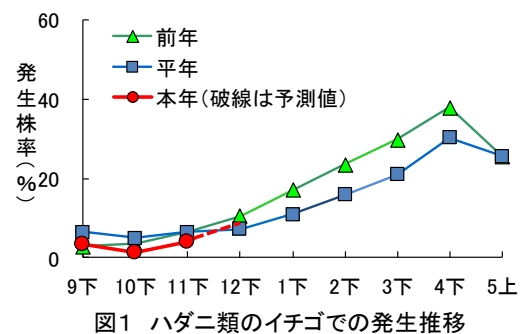
(定期調査 11 圃場、防除員 6 圃場)
調査日：11月19～21日



定期調査圃場の様子

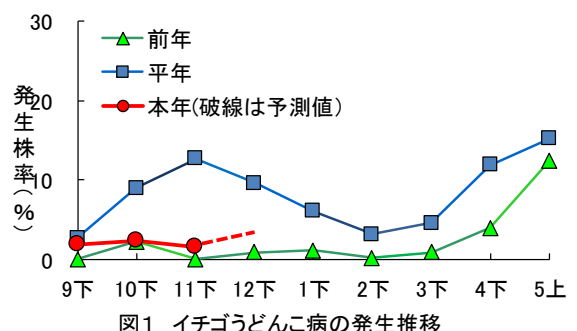
1. ハダニ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年並（前年並）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査（図1参照）
発生株率：4.0%（平年6.5%、前年6.4%）
平年比：やや少〈-～±〉 前年比：やや少〈-～±〉
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 薬剤防除の際は、下葉や葉裏まで薬液が付着するように十分量を丁寧に散布する。
 - (2) その他については、特記事項を参照。



2. うどんこ病

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや少ない（前年並）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査（図1参照）



発生株率：1.6%（平年 12.7%、前年 0%）
 平年比：やや少（一～±） 前年比：並（±）

(2) 12月の気象予報

降水量が平年並で、並発生条件（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 約10～14日間隔の薬剤防除と『さがほのか』では硫黄粒剤のくん煙処理を組み合わせる防除を行う。

3. アブラムシ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：0.9%（平年0.4%、前年0%）
 平年比：やや多（±～+） 前年比：多（+）

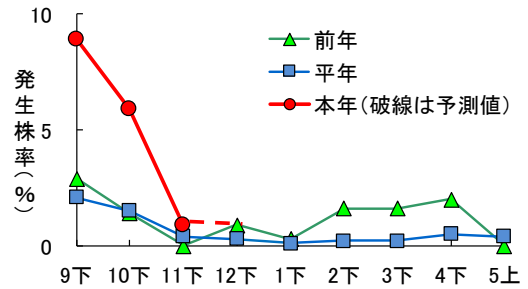


図1 アブラムシ類のイチゴでの発生推移

3) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤防除の際は、ミツバチへ影響の小さい薬剤を選定する（県病害虫防除のてびき P541～544）。

キュウリ

（定期調査5圃場）
 調査日：11月20日～21日



定期調査圃場の様子

1. うどんこ病

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：55.0%（平年 12.5%、前年 7.1%）
 平年比：多（+） 前年比：多（+）

(2) 12月の気象予報

降水量が平年並で、並発生条件（±）

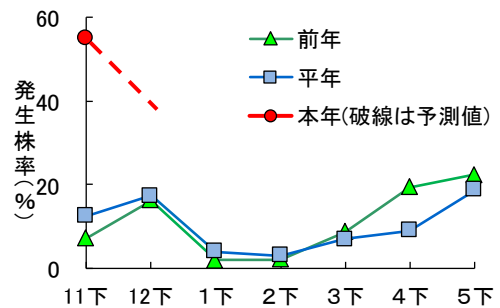


図1 キュウリうどんこ病の発生推移

3) 防除上注意すべき事項

(1) 硫黄粒剤や硫黄水や剤等の耐性菌が出にくい剤を組み入れて薬剤防除を行う。

2. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年よりやや少ない）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：3.0%（平年 6.4%、前年 10.0%）
 平年比：やや少（一～±） 前年比：やや少（一～±）

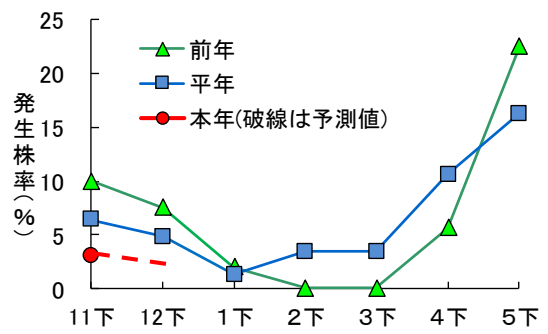


図1 アザミウマ類のキュウリでの発生推移

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

3. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1 参照）

発生株率：8.0%（平年5.3%、前年1.4%）

平年比：やや多（±～+） 前年比：多（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

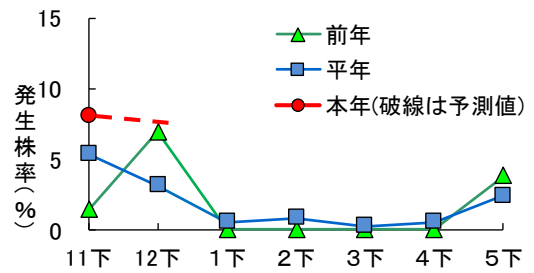


図1 コナジラミ類のキュウリでの発生推移

トマト

定期調査：8 圃場、防除員 6 圃場

調査日：11月19～21日



1. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1 参照）

発生株率：4.3%（平年4.9%、前年4.3%）

平年比：並（±） 前年比：並（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

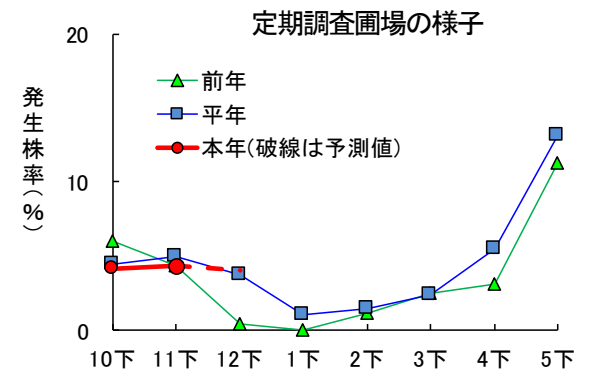


図1 コナジラミ類のトマトでの発生推移

定期調査圃場の様子

ナス（促成）

定期調査：7 圃場、防除員 4 圃場

調査日：11月19～21日



1. すすかび病

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1 参照）

発生株率：0.5%（平年0.3%、前年0%）

平年比：並（±） 前年比：やや多（±～+）

(2) 12月の気象予報

降水量が平年並で、並発生の条件（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 初発生を確認後、本病の発生を低く抑えるために、直ちにダコニール1000（TPN水和剤）を散布し、約1週間後にベルコートフロアブル（イミノクタジナルベシル酸塩水和剤）を散布する。これを約1ヶ月間隔で実施する。

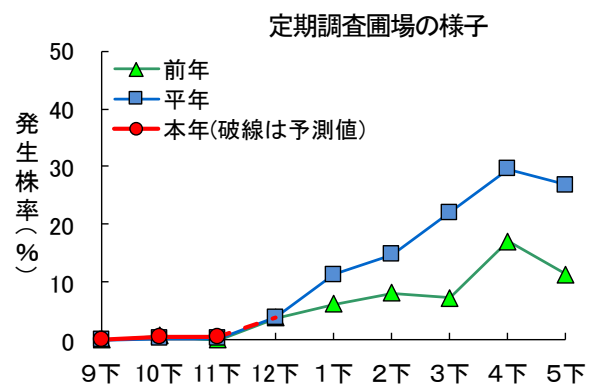


図1 ナスすすかび病の発生推移

定期調査圃場の様子

2. 灰色かび病

- 1) 予報の内容
発生量：平年より多い（前年より多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査（図1参照）
発生株率：0.2%（平年0%、前年0%）
平年比：多（+） 前年比：多（+）
 - (2) 12月の気象予報
降水量が平年並で、並発生の条件（±）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 特記事項を参照。

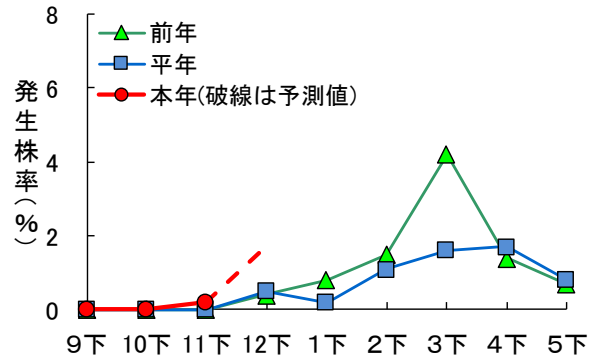


図1 ナス灰色かび病の発生推移

3. 菌核病

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い（前年並）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査（図1参照）
発生株率：0.2%（平年0%、前年0.4%）
平年比：やや多（±~+） 前年比：並（±）
 - (2) 12月の気象予報
降水量が平年並で、並発生の条件（±）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 特記事項を参照。

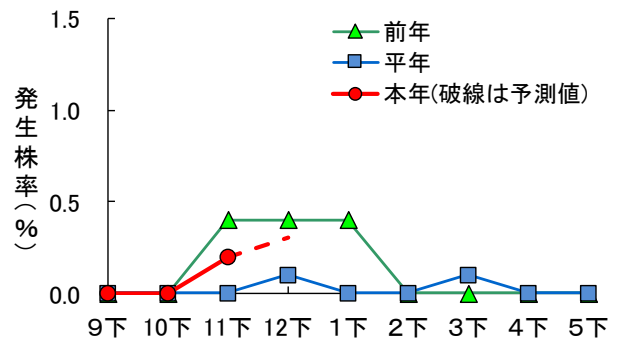


図1 ナス菌核病の発生推移

4. アザミウマ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや少ない（前年並）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査（図1参照）
発生株率：16.8%（平年26.8%、前年11.9%）
平年比：やや少（-~±） 前年比：並（±）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。

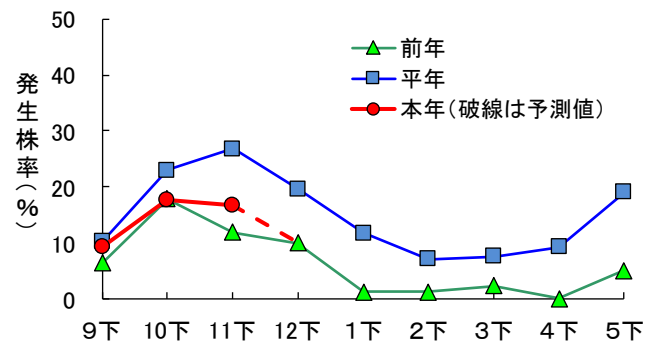


図1 アザミウマ類のナスでの発生推移

5. コナジラミ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや少ない（前年並）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査（図1参照）

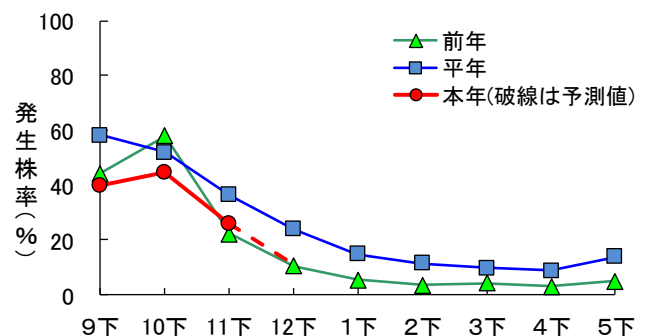


図1 コナジラミ類のナスでの発生推移

発生株率：25.9%（平年 36.3%、前年 22.3%）
 平年比：やや少（一～±） 前年比：並（±）

- 3) 防除上注意すべき事項
 (1) アザミウマ類の項と同じ

キク

定期調査（8圃場）
 調査日：11月19～21日



定期調査圃場の様子

1. 白さび病

- 1) 予報の内容
 発生量：平年並（前年よりやや多い）
- 2) 予報の根拠
 (1) 発生の現況
 ①定期調査（図1参照）
 発生株率 0.5%（平年 1.8%、前年 0%）
 平年比：並（±） 前年比：並（±）
 (2) 12月の気象予報
 降水量が平年並で、並発生の条件（±）

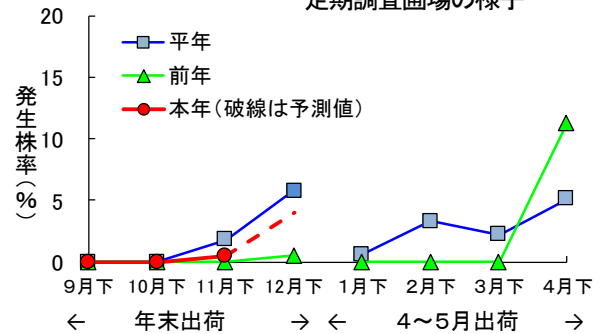


図1 キク白さび病の発生推移

- 3) 防除上注意すべき事項
 (1) 施設内が多湿にならないように適宜換気を図るとともに、発生前から薬剤を定期的に散布する。散布する際は、葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるように散布する。

2. アザミウマ類（クロゲハナアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ）

- 1) 予報の内容
 発生量：平年並（前年並）
- 2) 予報の根拠
 (1) 発生の現況
 ①定期調査（図1参照）
 発生株率 3.8%（平年 3.8%、前年 6.0%）
 平年比：並（±） 前年比：やや少（一～±）

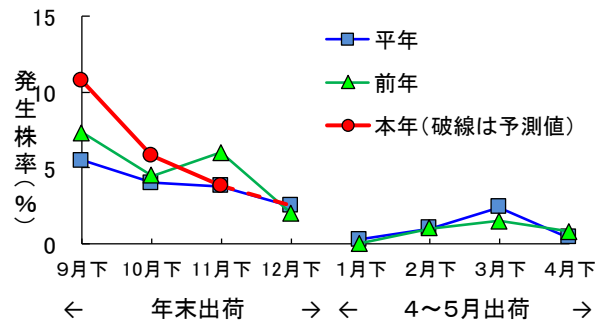


図1 アザミウマ類のキクでの発生推移

- 3) 防除上注意すべき事項
 (1) クロゲハナアザミウマは葉裏や生長点付近に生息しているので、防除を行う際はそれら部位にもかかるよう丁寧に散布を行う。
 (2) ミカンキイロアザミウマが媒介するキクえそ病（TSWV）・茎えそ病（CSNV）の発病株は早急に取り除き、本虫を対象とした薬剤防除を実施する。

3. ハダニ類

- 1) 予報の内容
 発生量：平年よりやや少ない（前年並）
- 2) 予報の根拠
 (1) 発生の現況
 ①定期調査
 発生株率 2.8%（平年 6.9%、前年 1.8%）

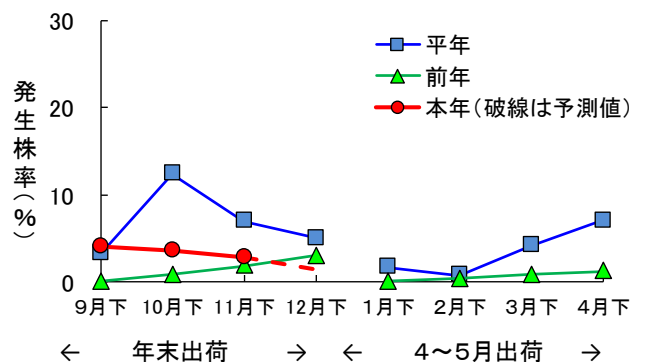


図1 ハダニ類のキクでの発生推移

平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるよう散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

4. チョウ目害虫（ハスモンヨトウ、オオタバコガ、シロイチモジヨトウ）

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査(図1参照)

被害株率0.8%（平年0.2%、前年0%）

平年比：多（+） 前年比：多（+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 花き共通の特記事項を参照。

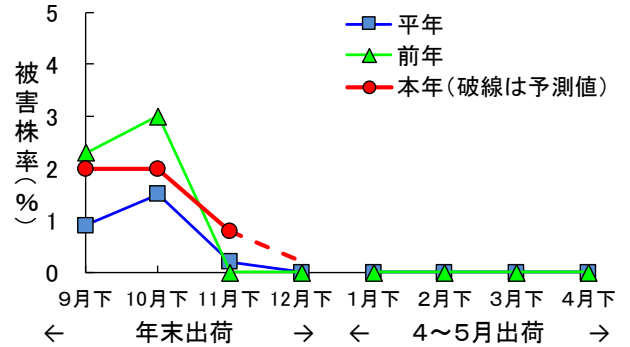


図1 チョウ目害虫によるキクでの被害株率の推移

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088
TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5042
Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp